

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (九州)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・消費税増税の影響により、4月よりは少し良くなっているが、まだかなり低い水準にある状況で、販売量、単価共に下がっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・長雨の影響はあったが、旅行関連商品の需要があり、来客数が伸びた。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・消費税増税の影響がやや和らいだ。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・今月は天候不順で青果物は動きが悪いが、身の回り品については食品を中心に少し回復している。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・8月の売上は前年比で、量販店が4%増、地域型店舗が2%増、コンビニエンスストアが7%減であった。台風前の販売量が量販店でかなり伸びたことで、コンビニエンスストアの減少分をカバーできた。
		その他専門店 〔コーヒー豆〕 （経営者）	販売量の動き	・8月の来店客数は前年比で横ばい状態である。お盆の時期もあり、進物用のコーヒーギフト等がよく出た。販売量が若干増えたようだ。
		観光型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・昨年は7～8月にかけてインターハイ等の大型イベントがあったため、宿泊・レストラン等の売上が過去最高だったが、今年は前年を下回っている。
		通信会社（企画担当）	競争相手の様子	・同業種全体で人材不足になっている。
		通信会社（業務担当）	来客数の動き	・6月から、料金プラン見直し目的での来店客数増が維持されている。それに伴い接客機会も増えたため、販売数も前年同月や前年より増加している。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・食料品店や小売店では客の慎重な様子が見え始める。悪天候も少し影響があった。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・とにかく来客が少ない。朝晩少し涼しくなったのでいくらかは良くなる。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・消費税増税の影響が薄れることを期待したが、冷夏、長雨の影響で夏物バーゲンの動きも鈍く、水着、浴衣、サングラス等の季節商材も最悪の状況である。初秋物の動きはあるが、全体をけん引するものではない。
		百貨店（業務担当）	販売量の動き	・8月に入っても夏らしい猛暑日の記憶がほとんどない。衣料品を中心に夏物の最終処分も勢いが無い。
		百貨店（営業統括）	来客数の動き	・8月に入り、天候不順が続いて客足が悪い。お盆期間の帰省客の来店が減少している。
		百貨店（店舗事業計画部）	お客様の様子	・夏休み中の不安定な天候の影響を最小限に抑えようと集客策を強化した。その結果、行楽目的の来店が増え来客数は健闘したが、季節商材の動きは今一つに終わった。昨年は猛暑でUV商材が好調だった分、今年は苦戦している。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・高額商品が売れなくなった。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・前半に雨が多く、本来売れる盛夏商材の乾麺や飲料、アイスクリーム等の売上は極めて厳しい。しかし、生鮮食料品の肉、魚、野菜等が好調に推移し、全体の売上は前年を超えている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・販売量が減っており、販売単価も伸びていない。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・客数が前年比97.6%で推移している。客単価は上がっているが、買上点数が0.3%くらい下がっている。販売の工夫がまだ足りない状況である。	
	スーパー（総務担当）	それ以外	・食品は前年を上回って推移しているが、衣料品・住居用品は長雨の影響もあり夏物の動きが悪く、売上に影響している。	
	スーパー（業務担当）	単価の動き	・数週間も雨の日が続いたため、地場産の野菜相場が高騰し始めており、品質も若干低下してきたため、生鮮関連商品の売上が悪化している。また消費税増税の影響も歯止めがかからず、高単価の家電製品等が伸びない。	
	コンビニ（店長）	販売量の動き	・夏休みで客数、販売量共に多いが、ボーナス時期の6月とはあまり変わっていない。	
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・スタンプシールの売出し、金曜日ごとにイベントをしても客が増えない。	

衣料品専門店 (店員)	お客様の様子	・雨が多かったので来店数は少なかったが、気温が低かったので秋物の先取り商品が売れた。
衣料品専門店 (チーフ)	お客様の様子	・夏物のバーゲンセールから秋物の立ち上がりまでの期間が短くなったため、マインドの高い客に関しては、秋物の新作要望がかなり高まっている。
家電量販店(店員)	販売量の動き	・消費税増税後若干落ち込んだが、6～7月とその反動も薄らいできた。しかし、8月はあまり調子が良くなかった。台風の影響もあるが、消費税増税の反動減については、9～10月をみないと景気判断がつかない。
家電量販店(総務担当)	販売量の動き	・天候不順のため、夏物主力商品のエアコン、冷蔵庫等の動きが鈍く、他の商品にも悪影響が出ている。
家電量販店(広報・IR担当)	販売量の動き	・消費税増税の影響や天候不順もあり、季節商材が振るわず好転の兆しがない。
乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・8月は稼働日数が少なく、車両販売台数が多く見込めない。前年並みの販売台数は確保できるが、単月利益は赤字になるかもしれない。景気回復は実感できない。
住関連専門店 (経営者)	来客数の動き	・8月に入り、来客数は消費税増税前の水準に戻ってきた。しかし、新規の企画はまだ軌道に乗っていない。消費者の財布のひもは相変わらず固い。
その他専門店 [ガソリンスタンド](統括)	お客様の様子	・燃料油の小売価格は、高止まりの状況からはやや下がりがつつある。小売価格が高止まりしているときは、定量・定額購入による給油が多少増加したようだ。顧客の様子をつかがうと、生活必需品である燃料油の購入については、夏休みファミリー旅行等に自家用車を使用し、旅行予算から燃料油分が超過した場合は他の経費を抑え、旅行総額は変えない様子が見える。
その他小売 [ショッピングセンター](広報担当)	販売量の動き	・梅雨明け後の衣料品が盛夏物を中心に好調である。住関連も寝具を中心に梅雨明け後好調である。昨年よりも気温が低く猛暑日も少ないため、アイスや飲料が不振となっている。
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター](統括者)	販売量の動き	・来場客数、売上共に前年並みである。
高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・特にディナータイムの来店が少ない。
スナック(経営者)	来客数の動き	・客数は、前年同月比でほぼ横ばいである。
都市型ホテル (副支配人)	単価の動き	・個人客の増加が堅調で、しかも単価の高い客が来ている。
旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・長雨の影響もあり、九州内の海関連施設や商品、日帰りのバスツアーなどは前年を下回っている。
タクシー運転手	お客様の様子	・ホテルの宿泊が多くても自家用車やレンタカー利用なので、タクシー利用は少ない。夜のピヤガーデンも雨でパツとしなかった。
タクシー運転手	来客数の動き	・2～3か月前に比べると横ばいの状況は変わらないが、夜の動きが非常に悪い。昨年に比べても売上が下がっている。
タクシー運転手	来客数の動き	・今月は全体的に売上が良かった。特に日中の客の動きが良く、県外からの観光客の利用も多かった。
タクシー運転手	お客様の様子	・8月にしては天候不順で雨が多く、例年のような人の流れではなかったが、前年の売上を若干上回ることができた。
通信会社(企画担当)	販売量の動き	・お中元商戦の特需時期だが、期待した販売量に届かなかった。前年同月比も下回った。
通信会社(営業担当)	単価の動き	・食品の価格が通常の倍になっている。
ゴルフ場(従業員)	単価の動き	・今月は雨等で生鮮食料品が値上がりし、家計に響いている。しかし、ゴルフ場の入場者数は徐々に伸びつつあり、例年並みの活気はあるようだ。
美容室(経営者)	販売量の動き	・夏の需要シーズンにもかかわらず、天候不順等もあって景気回復が遅れている。
美容室(店長)	来客数の動き	・3か月前と比べて客数も変わらず、景気が良くなったとは言えない。

	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	単価の動き	・顧客数は消費税増税以降、若干戻りつつあるが、売上についてはサービス利用回数減により、前年より減少傾向にある。
	設計事務所（代表表）	来客数の動き	・資料請求数など変わらない。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・宅建業の住宅分譲は、チラシ等で客の来場は見られる。しかし、問い合わせがあっても成約まで時間がかかるうえに、値引き交渉が非常に厳しく、売れたとしても利益率は低い状況が続いている。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・突然の豪雨や晴れ間がない日中など、異常気象に頭を悩ませている。顧客の購買欲の有無の前に来店がなく、天候に打撃を受けている。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	お客様の様子	・夏は、暑さで来店数は少なくなるが、さらに大雨が続き売上は減少している。雨が降れば大型ショッピングセンターに客が流れ、人通りがない。来客数・販売量共に大幅減である。天候の影響が強すぎるので、消費税増税の影響があるかどうかわからない。
	百貨店（営業担当）	単価の動き	・夏休み子供催事や食品催事と文化催事で来店客数は増えた。しかし、レジ客数と買上単価が低下し売上も横ばいとなっている。紳士服・雑貨とリビング用品は好調な反面、婦人服・雑貨は苦戦した。お中元贈答は減少したが、ギフトセンター終了した後も、帰省客による持ち帰りでの通常の売場が混雑した。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・百貨店を取り巻く雰囲気良くない。景気状況は足踏み、もしくは悪くなっている。
	百貨店（経営企画担当）	単価の動き	・入店客数は消費税増税後伸びているが、駆け込み需要の反動による買い控えから客単価は落ち込み、増税後厳しい状況が続いている。
	百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・関連店舗の売上は前年同月比94～103%であった。天候不良のため特別対策の売出しを増やした店舗もある。衣料品関係が悪いのが全店共通している。
	百貨店（企画）	販売量の動き	・今月より婦人服売上が回復傾向にあるが、ファッション関連の売上が依然低迷している。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・消費税増税後の回復が遅い。特に価格によって販売量が変化する加工食品や日配品の動きが悪い。
	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・消費税増税の影響は6月ごろ収まったと思われたが、長雨、冷夏の影響で販売額が伸びない。今後は、天候不順による青果物等の高騰が懸念される。
	スーパー（統括者）	競争相手の様子	・当社の既存店の売上高は厳しく、競合他社も同様の状況である。消費税増税以降の業績は伸びない。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・天候が悪く、夏物商品の売行きが鈍化し、前年を大きく下回っている。客単価も10円ほど低く、買上点数も大きく不足している。無駄な買物をしない客が多く、厳しい状況が続いている。
	コンビニ（店長）	販売量の動き	・雨が続き夏とは呼べないような天気で、通常、夏の売上が一番高いが、前年比1割減で販売量が推移している。
	衣料品専門店（総務担当）	競争相手の様子	・20日締めの上場企業の売上前年比、及び現在進行中の当社の売上推移等をみると非常に悪い。消費税増税による買い控えに天候不順が重なり、最近では例をみない程悪い状況が続いている。
	乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・軽自動車の受注が多く、利益が出ない。
	その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	来客数の動き	・8月上旬に、週末に台風が接近した影響で、飛行機の運航中止や天候悪化により客足が伸びず、売上が1割5分ほど減少した。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・建設業、不動産関係者の利用により、例年よりも忙しく、良かった。	
高級レストラン（専務）	来客数の動き	・例年、飲食店は夏場が振るわないのに加え災害が多かった。	
一般レストラン（経営者）	単価の動き	・今まで高価なコースを注文していた客が、1～2ランク下のコースを注文するようになった。また、割引コースや格安フェアの注文がかなり多くなってきている。客の志向が変わってきているようだ。	
都市型ホテル（販売担当）	販売量の動き	・前年より宿泊婚礼は増加しているが、宴会件数は減少している。会社全体的としては前年比プラスであるが悪くなっている。	

		旅行代理店（企画）	販売量の動き	・前年同期比に比べ取扱額が下回っている。また、個人消費においては海外旅行の申込が伸び悩んでいる。
		設計事務所（所長）	販売量の動き	・民間住宅の設計がかなり落ち込んでおり、なかなか回復しない。
		住宅販売会社（代表）	来客数の動き	・4月以降、住宅の完成見学会の来客数が減っており、3分の1～4分の1となってきた。それに伴い受注の数もかなり厳しい。同業他社の動きを確認しても同じような意見だ。消費税増税後の動きが少し鈍くなってきた。
悪くなっている		商店街（代表者）	来客数の動き	・天候不順により非常に客足が落ち込んだ。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・客は1円でも安い方を購入するようになってきている。当店は新品を扱っているが、他の古着屋は非常に客が増えている。経済状態は決して良くなっていない。特に年金生活者の生活は非常に厳しい方向に向かっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・周辺の同業者が安売りをしているにもかかわらず、当店は通常通りの営業をしている。当店の製作部門は安定しているため、何とか経営が成り立っている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・最近、商店街付近に24時間営業のコンビニエンスストアが増加し、商店街に来る客が少なくなった。
		一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・梅雨前線、台風の影響による高温多湿、長雨で、全国的に野菜不足となっている。宮崎では信州産レタスが600円を超えた。熊本産キョウリも1本100～150円となっている。ただでさえ販売量が減るこの時期に、単価が高いのでかなり厳しい状況である。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・8月は通常のお祝いギフトは控えられ、お供えの花が売れる。しかし、今年は台風がきたり、雨が降ったりしてお墓参りが減ったため売上は良くなかった。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・昨年の7～8月の記録では、35度以上の日が41日あったが、今年は全く夏らしい日がない。そのため飲料が売れず、前年比7割と非常に低迷している。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客足が鈍く、接客よりも待機の時間が長い。客は買物をする気持ちにならないようだ。
企業動向関連 (九州)	良くなっている	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・年度後半に予定していた自治体向け案件のうち、複数件が前半に前倒しになった。
	やや良くなっている	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・鶏肉相場の高騰による品不足の傾向が強い。特に冷食、ハム・ソーセージメーカーの原料不足が著しく、取引先からの注文に対応できない状況である。スーパー、居酒屋等からの注文数も多い。夏のお中元ギフトの注文数も昨年に比べると、若干であるが上回っている状況である。
		家具製造業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・8月の月別売上指数は、前年と同程度の指数であったが、1件当たりの受注額が増えた。低価格商品より、やや高額に価格設定しているミドルクラスの家具が多く売れたため、売上は前年比で110%だった。ローコストな中国製の家具よりも、国産品かヨーロッパ家具などの売上が伸びている。
		電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・仕事があるのに人手が足りない、断るしかないなどの声を聞くことがある。
		その他製造業（産業廃物処理業）	受注量や販売量の動き	・取引先の新機種生産量が増加傾向にあるため、受注が徐々に増えている。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・設備投資への融資が堅調に推移している。
		経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・弊社への発注件数・金額共に上向きつつある。
	変わらない	農林水産業（営業）	取引先の様子	・業界では、荷不足感や値上げ感が高まるものの、販売数量が伸びていない。
食料品製造業（経営者）		受注量や販売量の動き	・端境期であるが、比較的受注数も多かった。	
繊維工業（営業担当）		それ以外	・ここ2～3か月間は変化がない。しかし、運送代の値上がり激しい。運送会社と交渉中であるが、通常ではありえない値上げが提示されている。	
化学工業（総務担当）		受注量や販売量の動き	・工場の稼働状況は3か月前と特に変わらない。	

	金属製品製造業（事業統括）	受注量や販売量の動き	・引き合いや受注は前年比で増加しているものの、深刻な人手不足により受注先の工事が進まない。建築設備機器を生産している当社では、計画通りに売上が立たない。受注残ばかりが増加傾向にある。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全体の注文量は前月と変わらないが、半導体分野の注文量が少ない。	
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・顧客から案件の話はあるが、話し通りに契約ができないことに悩んでいる。9月になったら少し落ち着くのではないかという楽観もあるが、現在、生産が増えていないのが実態である。	
	通信業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・IT関連の受注量が増えてきている。好況に支えられて、全般に設備投資が積極的に展開されているようだ。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・製造業では、一時的に消費税増税前の駆け込み需要の反動減がみられたが、生産は概ね横ばいで推移している。一方、個人消費は夏場の天候不順などのマイナス要因はあるものの、所得環境の好転により、やや持ち直している。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・売上は増加傾向にあるものの、建設業、運送業、システム開発を始め、中小・零細企業は全業種的に人手不足が顕著である。そのため、売上は上がってもコスト高である。	
	金融業（営業）	取引先の様子	・景気は高水準を維持している。特に設備投資については、アベノミクス効果もあって高水準となっている。製造業も小売業も積極的な投資がみられる。	
	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上は、4月から前年割れの状態が続いている。	
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・営業の反応が悪く、成果に結びついていない。新規契約はなかなか困難である。	
	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・売れているメーカーと売れていないメーカーの差が開いている。	
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・現況は落ち着いている感がある。資金ニーズも数か月前と比較し同レベルである。不良債権もなく、取引先の環境は比較的好調である。	
やや悪くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	競争相手の様子	・消費税増税直後はそうでもなかったが、8月は台風と異常気象のために、特に定番商品の動きが悪かった。メーカー各社でも忙しいところと暇なところが出ており、総じて商品の荷動きが悪い。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ユーザーの動きがはっきりしない。なかなか受注量が上がらないので、原因をいろいろ模索する必要がある。	
	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・前年度同期の発注と比べて、明らかに少なくなっている。積算量の少なさに驚いている。下半期の発注に期待をしたい。	
	輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後の荷動きが悪い。	
	輸送業（総務担当）	競争相手の様子	・客から預かっている貨物の荷動きが非常に悪くなっている。	
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・当地は建設業関連業者が多い地域で、前期からの繰り越し工事もあり、各社とも資金繰りは落ち着いている。ただし、昨年度、災害復旧関連工事が多く発注された反動減で、今年度の発注件数は大幅に減少している。そのため、景況感については一つ後退している。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・8月の景気は、悪いと言われた7月より更に悪化した。天候不順が大きな原因であるが、消費税増税の影響が大きかった7月よりも8月が落ち込んだことは心配である。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連 (九州)	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・大手保険会社の地方への本社機能移転より、直接雇用である契約社員の求人が増えている。
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・求人数が増えてきている。新規オープンの小売店が多くあり、活気が出てきている。さらに、派遣だけでなく直接雇用を前提とした紹介予定派遣が増えた。また、登録スタッフに仕事の案内をしても、現在別の面接を受けていると答える方が多い。派遣スタッフ登録の予約を入れたが、仕事が決まり登録をキャンセルする方も多い。

	人材派遣会社 (営業)	雇用形態の様子	・派遣から直接雇用を前提とした紹介予定派遣や、直接雇用での人材紹介の案件が確実に増加している。ただし、派遣法改正を見越しての動きの部分もある。
	職業安定所(職員)	求職者数の動き	・5～7月の新規求職者数は、昨年比で594件の減となっている。建設、医療、介護等をはじめ、製造、飲食、各種産業において人手不足となっている。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は、前年同月比で5か月連続増加している。
	職業安定所(職員)	それ以外	・4月以降の有効求人倍率は、各月すべてで前年同期比プラスとなっている。新規求人倍率は4月以降上昇傾向にある。
	民間職業紹介機関(社員)	求人数の動き	・求人はばらつきがあるが、平均すると若干増加している程度である。
	学校[大学] (就職支援業務)	採用者数の動き	・学生の内定者、決定者の割合がここ数か月、昨年より好調で、先月も前年比5ポイント程度上昇している。
変わらない	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数の動きとしては堅調に推移しており、変わらない。
	新聞社[求人広告] (担当者)	求人数の動き	・8月は雨量が多く、小売、サービスを始め多くの業種で影響が出ており、求人数も伸びがない。
	新聞社[求人広告] (担当者)	周辺企業の様子	・有効求人倍率は増加傾向にあると言われていたが、求人広告全体としては横ばいとなっている。
	新聞社[求人広告] (担当者)	求人数の動き	・有効求人倍率が劇的には改善していない。
	民間職業紹介機関 (支店長)	求人数の動き	・製造業、小売業、介護関連等の求人は非常に多いが、労働者派遣の主力サービスである専門業務の求人はほとんど増加していない。
	学校[専門学校] (就職担当)	求人数の動き	・本校の求人数は前年比115%前後という状況が続いており、状況に大きな変化がない。また、内定状況も昨年同時期比プラス10%弱で推移している。
やや悪くなっている	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・取引先のビルメンテナンス会社の話では、新規案件を取りたくても人員の確保ができないので入札を控えるとのことだ。また、最低賃金も大幅にアップするので経営戦略の見直しを余儀なくされている。
悪くなっている	-	-	-